

平成 29 年度 第 1 回図書館協議会 会議録（要旨）

- 日 時： 平成 29 年 7 月 19 日（水）午後 1 時 30 分～3 時 00 分
- 会 場： 燕市役所 3 階 会議室 301
- 出席委員： 池田忍委員、石山武雄委員、加藤一夫委員、近藤良美委員、伊藤芳文委員、
山田邦雄委員、岡田悦子委員、柳原康浩委員
- 欠席委員： 相田美恵子委員、井部隆委員
- 事務局： 燕市教育委員会 仲野教育長、山田教育次長、宮路社会教育課長
赤塚社会教育課長補佐、本間副参事（生涯学習推進係長）、浅野主任
指定管理者 高久館長、菊埼統括マネージャー
宗村業務責任者（燕市立図書館）、佐藤業務責任者（燕市立吉田図書館）
野島業務責任者（燕市立分水図書館）
- 報道機関： なし
- 傍聴者： なし
- 議 題：

5. 報告

- (1)平成 28 年度図書館利用状況について……………資料 2
- (2)平成 28 年度図書館事業実施状況について……………資料 3
- (3)平成 29 年度図書館事業計画について……………資料 4
- (4)新潟市及び燕市における連携中枢都市圏形成に係る連携協約に基づく
新潟市立図書館と燕市立図書館の相互利用について（経過報告）…資料 5

6. 協議

- (1) 燕市子ども読書活動推進計画の進捗状況について……………資料 6

[以下、会議録(要旨)]

5. 報告

- (1) 平成 28 年度図書館利用状況について
《事務局説明》
質疑なし
- (2) 平成 28 年度図書館事業実施状況について
《事務局説明》
質疑なし

(3) 平成 29 年度図書館事業計画について

《事務局説明》

○委員

5 ページの特別支援学校職場体験とあり、吉田支援学校・月ヶ岡支援学校の 2 件があがっているが、なぜ西蒲特別支援学校が入っていないのか。

西蒲特別支援学校の方が、月ヶ岡支援学校と比較してアクセスが良く燕市から通っている子どももいる。

○事務局

ここに記載した 2 件は、実績を記載したもの。要請があれば他の箇所も伺う。

○委員

燕市でこのような事業を行っているということは、西蒲特別支援学校へ話が行っているのか。

○事務局

直接、燕図書館からは行っていない。

○事務局

補足だが、燕市には、プレジョブという職業支援の団体があるが、そこを通じて西蒲特別支援学校に通っている学生の方が職場体験で燕図書館へ来館したことはある。

○委員

プレジョブはサークルであり、燕市教育委員会とは関係ないのではないかと。燕市教育委員会からの案内の話をしている。

○事務局

今後、西蒲特別支援学校にも案内できる手法を検討させていただく。

○委員

そのような職場体験は、特別支援学校からの申請に基づいて行う申請主義なのか。

○事務局

申請主義になっている。特別支援学校の生徒の方 1 人では、なかなか通えないので、「図書館の近くに住んでいる生徒の方でどうでしょうか。」という形で特別支援学校から申請が来る。

(4) 新潟市及び燕市における連携中枢都市圏形成に係る連携協約に基づく新潟市立図書館と燕市立図書館の相互利用について（経過報告）

《事務局説明》

○委員

1 ページ目の 2 の連携サービスの内容のなかで、リクエストと相互貸借は除くとなって

いるが、今も私が図書館へ行って相互貸借のサービスを受けている気がするのだが、それがなくなるといふことか。

○事務局

今現在、燕市民が新潟市へ行ったときには、相互貸借は受付けていない。同じく新潟市民が燕市へ来たときは、相互貸借は受付けていない。だが、どちらも予約は受付けている。

6. 協議

(1) 燕市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

《事務局説明》

○委員

指標一覧表で、今ほど説明のあった「×」が記載されている部分にも担当課という欄があるが、これらの課と図書館との連絡はどのように行っているのか。

○事務局

まず「ボランティアの活用等による読み聞かせ実施施設数」の担当課は子育て支援課であり、教育委員会内部なので生涯学習人材バンクや BOOK サポーターの事業を使って数値を達成するよう打合せを行っている。

次に、「学校向けスタディパックの貸出数」の担当は図書館であるが、図書館とは毎月、月例報告会ということで会議を行っている。そのなかで、スタディパックの貸出数の状況等を確認しながら、来年度の数値達成に向け努力していきたい。

○委員

スタディパックの中学校からの要請はどのくらいあるのか。

○事務局

スタディパックは今のところ小学校向けで行っている事業なので、中学生向けのスタディパックはない。もし中学校から要望があれば、燕・吉田・分水の各館で所蔵している図書から中学生向けとして作成して貸出しすることになる。

○委員

この計画に記載されている事業については、予算も多くつけてもらっており、図書館環境は充実してきていると思う。

今年度は、これらを活かした学校図書館の活性化を市立図書館も交えて考えていかないといけないと思うがいかか。学校図書館と市立図書館で協議等を行っているのか。

○事務局

今現在、市立図書館が各学校を月に一度巡回している。その結果を学校教育課へ報告している。

○事務局

月に一度各学校を巡回しているが、各学校の学校図書館の整備の支援という段階で、市立図書館と学校図書館の連携という話し合いまでは、まだ進んでいない状況である。

○委員

学校図書館の担当の先生に市立図書館がどのような支援ができるか情報共有がされていないと感じる。学校は年度で担当の先生が変わるので、年度当初にこのような情報共有を徹底して行うべきと思う。

○事務局

学校には司書専門の職員がいない状況であるのは、ご存じのことと思う。現状は、教諭が司書免許を持っていて学校図書館を担当しているが、その教諭も担任を持っているため、学校図書館に常駐するという事は不可能な状況です。

一方で、市立図書館は現在 TRC に指定管理を社会教育課からお願いしているが、学校図書館の担当である学校教育課との連携が、縦割り行政で甘いのではないかと感じられることを懸念している。

学校図書館は、蔵書を増やし環境を整えるため、近年多くの予算を付けているところだが、「もの」はあるが、それを案内する仕組みができていないということが大きな課題であると感じているので今後検討させていただきたいと思う。

○委員

子どもが一番身近に感じる図書館は学校図書館であり、その学校図書館を直接管理しているのは、各学校の図書館担当の先生であると思う。そのやり方がいろいろあるわけで、各学校によってもいろいろと違うと思うが、市立図書館はそれらを全て把握していないと思う。各学校の取組み方法を資料として揃えて、良い取組みをしている学校の手法を他の学校へ取り入れる等の検討を行った方が良いのではないか。

○事務局

以前から学校図書館の蔵書管理については、ご指摘をいろいろといただいていた。現段階では、学校図書管理システムが導入されて、学校図書の蔵書管理もできるようになったという状況である。このシステムをスムーズに運用するために市立図書館が月に一度各学校を巡回しており、これを補助するために臨時職員を2名採用した。

これにより、今まで市内 20 校でバラつきのあった蔵書管理のレベルが均一化されてきた。蔵書管理が適正に動いてくると、今まで管理してこなかったために、蔵書期間を過ぎてもそのままになっていた図書を廃棄したりして、冊数が少なくなってしまったので、複数年の計画で予算を付け、学校図書を購入しているところである。

学校教育課で考えているのは、まずは学校図書管理システムをきちんと運用させたい。そして不足した蔵書を購入し環境を整えたい。という段階である。

これらがある程度軌道に乗ってきたら、次のステップとして市立図書館と連携してどのような取組ができるのかということを検討していきたい。

○委員

今ほど話のあった司書を補助する目的で採用した臨時職員は今後も継続して雇用される考えなのか。

現場の先生は、なかなか忙しいので学校を専門に回る職員を今後も継続して雇用していただきたい。

○事務局

臨時職員の雇用は、予算が付きまとう話なので、なかなか簡単には行かないが、私ども教育委員会としては、専門性を持った方から学校図書館を巡回してもらうことで、環境の充実に努めていきたいので、しっかりと予算要求を行っていきたいと考えている。

○委員

少し話は戻るが先ほど小学校の図書担当の先生の話があったので、少し情報提供をしたいと思う。燕市と弥彦村で小学校が 16 校あり、燕と弥彦の図書館協議会という組織がある。その組織では、各校の図書館担当・図書館主任を集めて研修会を何回か行っているのので、それぞれの小学校同士の情報交換の場はあるということをお伝えしたい。

○委員

ありがとうございます。そういった場を活用していろんな取組の良いところを取り入れることで他の学校にも良い影響になると思う。さらにそこに中学も参加できるとなお良いと思う。

○事務局

学校図書館の運営については、学校教育課で年に何回か学校図書館の担当の先生やボランティアの方と合同で研修会を行っている。そこでは、中学校も一緒になっており、今年度は他の図書館へ研修視察に行くということも聞いているので、そうした場でレベルを併せながら、お互い刺激し合う場として有効活用している。

7. その他

○委員

この前開催された斎藤惇夫先生の講演を聴きに行った。とてもレベルが高く面白い話であった。あのような講演を県などと連携して燕市でどんどん開催することで燕市の読書や読み聞かせのレベルアップに繋げてほしい。

○委員

私も聴きに行ったが、非常に面白くレベルの高い話で、保育士や学校の先生等、もっと多くの方に聴いていただきたいかった。

○委員

私は所用で行けなかったが、資料をいただいてとても良い講演だったと聞いている。選書の委員についての話もあったようだが、学校図書館の選書についてもある程度の知識が必要と思うので、そのあたりも学校間での情報共有が必要と考えている。現状は、選書のレ

ベルが学校間でも異なっている状況なので、そのあたりの協議も今後お願いしたいと思う。

○事務局

今ほどの話は7月16日に行った県主催で燕市共催の「子ども読書オープンカレッジ」の斎藤惇夫先生の講演会と思う。今まで絵本作家の方を招聘しての講演会はあったが、今回のような大人向けの講演会はあまりなかったので、そういう意味でもよかったのではないかと思う。

委員さんがおっしゃるように、大変良い講演会であったので、今回の会議録を送付する際に講演会で配布された資料も併せて送付させていただきたい。

○委員

私の方から一つ提案だが、燕市で行っている健康ポイント事業に図書館に来館した場合や本を借りた場合、図書館事業に参加した場合にポイントを付与する仕組みができないかと思う。

体力づくりばかりではなく、図書を借りたりすることで脳トレとして良いのではないかと思うが、委員の皆さんのご意見はいかがか。

○委員

私も市の健康ポイント事業に参加して4年目になり、もう少しで300キロ歩く。健康に対する意識が変わる良い事業である。子どもにはポイントを付与して景品と交換できるとなれば、一つのモチベーションとなり、もっと本を読むこともあるかもしれないので、良いのではないかと思った。

○委員

子どもの分は図書館でカードがあるが、高齢者に対して昨今言われている健康寿命をあげるために、体も使って、頭も使ってという方がトータルでイキイキしてもらえないかと思うが、連携事業として市の他の課に話をした方がよいのか。

○事務局

燕市健康マイストーリー運動のことと思うが、ポイントのメニューがいろいろとあって、社会教育課で行っている事業でも高齢者を対象とした目耕塾などが対象となっている。

持ち帰って担当課である健康づくり課と協議したいと思うが、今現在も他課の事業が対象として掲載されているので可能性はあると思う。

メリット・デメリットを調査しながら検討したいと思う。

○委員

先程の新潟市との連携の話で以前、貸出の予約件数も上がるというシミュレーションがあった。貸出倍率がこの連携によって上がっても、スマホなどからでもインターネットで貸出状況や予約もできるので、そのようなサービスがあることを広報等でもっと周知してほしい。

○事務局

今現在ウェブでの予約状況も年々増えてきており、少しずつ浸透してきていると感じて

いる。紙面等の状況も見ながら広報担当部署と協議し検討したいと思う。

○委員

先ほどの県民カレッジの話で資料以外で感銘を受けた話があるので紹介したい。

北欧のフィンランドでは、父親が毎日子どもに読み聞かせをする。ノルウェーでは父親が子どもによく読み聞かせる「3匹のヤギのガラガラドン」という話があるが、これはノルウェーの父親なら誰でも暗唱できるという話があった。

どこの国でも子どもが文字を読めるようになって10才になるまでは読み聞かせをしてやるのが重要だという話だった。

市内でも母親が中心となって読み聞かせのボランティア活動があるが、子どもの学力が高い要因にもなっているという斎藤先生の話もあったので、図書館や学校からも父親からもっと積極的に読み聞かせに参加してもらえるように働きかけをしてもらえたら良いのではないかと思う。

○事務局

「お父さんのお話会」ということで、図書館でもこれからお父さんになる方も対象とした事業を行っている。家族揃って出かけてもらえる図書館になるように努力していきたい。

○委員

フィンランドは子どもが10才になると、本の成り立ちから分類、調べ方まで全てを網羅できるような1冊の本をプレゼントする習慣がある。このような本を全ての子どもにプレゼントできないにしても、学校等でこのようなことを教えてもらえる機会があれば、もっと図書館の利用者も増え、本に対する親しみも増すと思うので、ご検討をお願いしたい。

【事務局より連絡】

◆次回委員会（H30年2月を予定）について